

平成31年度全国学力・学習状況調査より

～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する 結果の分析と改善に向けた今後の取組について ～

福島市教育委員会

1. はじめに

福島市教育委員会では、平成31年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々の御理解と御協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたいと考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、御覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

2. 調査の概要

(1) 調査日時 平成31年4月18日（木）

(2) 調査対象

市立小学校48校の第6学年の全児童、市立中学校20校の第3学年の全生徒

(3) 調査内容

- 小学6年 国語、算数
- 中学3年 国語、数学、英語
- 生活習慣や学習環境等の質問紙調査

3. 教科に関する調査の結果（平均正答率）

(1) 小学6年

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	63	64	63.8
算数	65	65	66.6

(2) 中学3年

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	72	72	72.8
数学	59	57	59.8
英語	54	53	56.0

4. 全国の結果から分かる本市の特徴（○全国を上回っている主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学6年

国語	○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること。 ▲目的や意図に応じて、自分の考えを書くこと。 ▲文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。
算数	○図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成すること。 ○単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断すること。 ▲複数の情報から、必要な情報を選び立式すること。 ▲資料の特徴や傾向を関連づけて判断し、その理由を記述すること。

(2) 中学3年

国語	○伝えたい事柄について、自分の考えや気持ちを書くこと。 ○論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること。 ▲文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明らかにして自分の考えを持つこと。 ▲文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること。
数学	○簡単な連立二元一次方程式を解くこと。 ○図形の性質が成り立つための前提を考え、説明すること。 ▲四則計算の結果について、数の集合と関連づけて理解すること。 ▲与えられた情報を読み取り、事象に即して理解し活用すること。
英語	○情報を正確に聞き取り、話の内容を聞いて理解すること。 ○英語の文章を読んで、内容を理解すること。 ▲聞いた内容について適切に応じ、与えられたテーマについて考えを整理して文章を書くこと。 ▲適切に接続詞を用いること。

福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

小学校6年国語

育っている力

- ① 知りたいことを調べるためには何をどう読めばよいかなど、目的に応じて、本や文章全体を読む力が身に付いています。
- ② ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることが身に付いています。
- ③ 必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、それをもとに自分の考えをまとめたりする力が身に付いています。



育てたい力と手立て

- ① 目的や意図に応じて、自分の考えを理由を明確にし、まとめて書く力

→ 文章から大事な言葉や文を抜き出したり、言葉を根拠としながら自分の考えをまとめたりする学習を大切にしていきます。

- ② 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く力

→ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解させ、文のつながりを意識しながら、文章を読んだり書いたりする学習に取り組んでいきます。

小学校6年算数

育っている力

- ① 基本的な平面図形について理解し、図形の性質や構成要素に着目し、図形を組み合わせて異なる別な図形をつくる力が身に付いています。
- ② 日常生活の中の算数を使って考える場面で、答えとその求め方を記述し、導き出した答えが条件に当てはまるかどうかを判断する力が身に付いています。
- ③ 計算の性質を見い出し、その性質を別の問題に当てはめて活用する力が身に付いています。



育てたい力と手立て

- ① 複数の情報から必要な情報を選び、立式する力

→ 日常生活の中の算数を使って考える場面で、多くの情報の中から必要な情報を選択したり、比例などの伴って変わる2つの数量を見い出したりする学習を大切にしていきます。

- ② 複数のグラフや表の特徴や傾向を関連づけて説明する力

→ 日常生活の中の算数を使って考える問題の解決のために、児童自らが複数のグラフや表から得た情報を関連づけて考え、自分の考えた理由について根拠を明確にして説明する学習を計画的に取り入れていきます。

児童質問紙調査の結果から (全国と比較して)

福島市の児童の良い点 ○ 計画的に家庭学習を行う

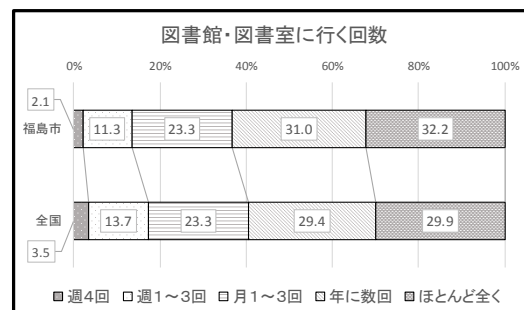
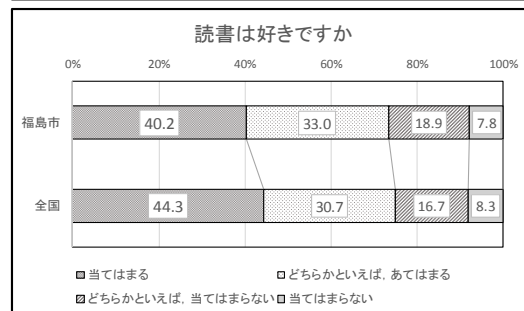
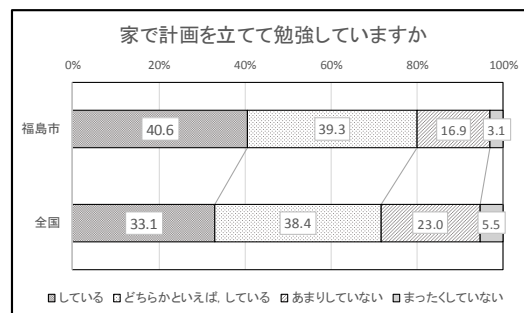
「家で自分で計画を立てて勉強している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童の合計割合は79.9%（全国比+8.4ポイント）と、とても高くなっています。また、平成29年度からの推移を見ると、70.0%→74.3%→79.9%と計画的に学習している児童の割合が増加しています。「計画を立てて勉強している」児童と「まったくしていない」児童の各教科正答率を比べると、国語では13.7ポイント、算数では7.7ポイントのちがいが見られます。

今後も、「家庭学習のスタンダード（福島市版）」を活用し、自己マネジメント力の育成を図っていきます。

福島市の児童の課題 ○ 読書に親しむ

「読書は好きですか」について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の合計割合は、全国に比べてやや低くなっています。また、図書館、図書室に行く回数についても、全国に比べ低くなっています。「読書が好き」と答えた児童は「まったく当てはまらない」と答えた児童と比べ、国語の正答率が20ポイントほど上回っています。

今後も、学校と家庭が連携して読書に親しむ環境づくりに努めていきます。



福島市教育委員会の学力向上への取組

○ 日々の授業の充実に向けて

年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問や授業研究会を通してよりよい授業の実現に向けて助言し、個々の教員の指導力向上を図ります。

また、指導主事が各校の管理職や学力向上担当者と課題や学力向上策を協議し、国語や算数をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。

○ 家庭学習の充実に向けて

本市の児童はしっかりと家庭学習に取り組むことができます。市では家庭学習の質的な向上を図るため「家庭学習のスタンダード（福島市版）」を作成し、各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図っていきます。

保護者の皆様へ

学力向上の第一義的な責任は学校にあります。学力の定着と学習習慣の確立のためには、家庭との連携が極めて重要であると捉えています。お子さんの学力をさらに向上させるために、以下の点について御協力をお願いいたします。

- ・ 「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣化、テレビやゲーム、スマートフォン等についての約束事など、望ましい生活習慣の確立が学力向上には不可欠です。
- ・ 「いつもの時間に、いつもの場所で」落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。
- ・ 今後も、お子さんの頑張りを大いに褒めてあげてください。御家族の温かい言葉や励ましが新たな学習意欲へとつながっていきます。